

二種混合予防接種（ジフテリア・破傷風）の説明

接種対象年齢	11歳以上13歳未満（13歳の誕生日の前日まで）
望ましい接種年齢	11歳に達したときから12歳に達するまでの期間
ワクチンの種類	不活化ワクチン（トキソイド）
予防する病気	<p><ジフテリア> ジフテリア菌の感染によって起こる急性感染症です。1981年に現在使われているジフテリア百日せき破傷風混合ワクチン（DPT）が導入され、現在では患者発生数は年間0～1人程度です。しかし、ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状がでない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。 感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜ができて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあります。そのため注意が必要です。</p> <p><破傷風> 破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状が気付かれ、やがて全身のけいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの人では気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、お母さんが抵抗力（免疫）をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。</p>
接種回数	1回
実施時期	年間通して実施
実施場所	個別予防接種実施医療機関
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期に三種混合又は、四種混合の接種が完了していない場合は、かかりつけ医にご相談ください。 ・2期の接種に使用するワクチンは、沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド（DT）のみ使用。
副反応	<p>局所の反応は最も多く、接種後7日までに約31.5%に発赤・腫脹・硬結の局所反応がみられます。局所反応は数日で自然に治まるが、硬結は縮小しながらも数か月持続することがあります。接種後の37.5℃以上38.5℃未満の発熱や38.5℃以上の発熱も、接種後1～2日目に発現のピークがあります。</p>
備考	<p>各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。 必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。</p>